

30年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
入荷動向	スギ	36.4	13.6	13.6
	ヒノキ	31.3	0.0	△ 6.3
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	50.0	25.0
消費動向	スギ	13.6	4.5	4.5
	ヒノキ	12.5	6.3	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	22.7	18.2	4.5
	ヒノキ	18.8	6.3	0.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 25.0	50.0	50.0

・スギ製材用原木の入荷動向は3カ月連続増加。ヒノキは12月の増加から1月は横ばい、2月は減少に。カラマツは12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。トドマツは12月の減少から1月、2月は増加に。
・スギ、ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは12月の減少から1月、2月は横ばいに。
・スギの在庫動向は3カ月連続増加。ヒノキは12月、1月の増加から2月は横ばいに。カラマツは12月の減少から1月は横ばい、2月は増加に。トドマツは12月の減少から1月、2月は増加に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/12月	31/1月	2月
スギ	4.5	0.0	△ 4.5
ヒノキ	△ 21.4	△ 6.3	△ 12.5
カラマツ	50.0	50.0	50.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の価格動向は保合。
・ヒノキは弱保合。
・カラマツとも強保合。
・トドマツ横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツ入荷は依然として改善していない。合板工場は値上げしたが、皆伐作業が始まっていないので丸太は入荷していない。トドマツは国有林のシステム材が順調に入荷（北海道）。
・12月前半の暖気で林道がぬかるみ、車両が入れなかったため入荷が極端に減少。中旬以降は寒気襲来で道路が固まり徐々に入荷も、トラックの配車が集中し思い通りの入荷にならず。消費は原木在庫に合わせてフル生産。10月の6,400m³から11月は5,550m³、12月の目標は5,500m³も4,500m³程度と予想。在庫は今後の丸太入荷に期待も仕入れの厳しさは続く（北海道）。
・高値維持の影響もあり、スギ、ヒノキとも出材は前月同様。荷動良好につき消費横ばい。在庫は前月並で横ばい（東北）。
・スギ材は凍結等で消費減になる見通し（関東）。
・スギの入荷は少し増えた感じがあるが、ヒノキは横ばい。製材量はほぼ変わらない。スギの仕入を進めたため在庫はやや増加（中部）。
・原木不足が落ち着き製材品とのバランスが取れた（中国）。
・比較的好天が続き、11～12月にかけて出材量が増えた。消費増の予定であったが人員不足のため横ばい。11～12月に若干原木在庫が増えてきた（中国）。
・ヒノキの出材は順調、スギは少ないまま横ばい（中国）。
・ヒノキ丸太は12月までは通常通りの消費だが、1～2月はやや減少の予定（九州）。
・今のところ天候もよくスムーズに出材されている模様（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツ丸太は高値安定（北海道）。
- ・3mスギ柱・中目材、4mスギ柱材ともに横ばい（東北）。
- ・スギ、ヒノキともやや下落。冬期需要減で供給増となる見通し（関東）。
- ・スギ、ヒノキとも競り上がりはあまりないが、価格は横ばいで高値が続くそう（中部）。
- ・ヒノキ原木は価格上昇（中国）。
- ・出材増によって、高すぎたヒノキ丸太14～20cm×3mの価格が落ち着いてきた（中国）。
- ・ヒノキ4m、24cm上の丸太が価格上昇。4mの20～22cmは合板と競合し、同じく16～18cmと同価格になる（九州）。

30年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
生産動向	スギ	15.0	5.0	0.0
	ヒノキ	7.1	0.0	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	25.0	0.0	△ 5.0
	ヒノキ	14.3	△ 7.1	△ 14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	0.0	16.7
	ヒノキ	0.0	0.0	16.7
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産動向は12月、1月の増加から2月は横ばいに。ヒノキは12月の増加から1月は横ばい、2月は減少に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは12月の減少から1月、2月は横ばいに。

・スギ製材品の出荷動向は12月の増加から1月は横ばい、2月は減少に。ヒノキは12月の増加から1月、2月は減少に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは12月の減少から1月、2月は横ばいに。

・スギ、ヒノキ製材品の在庫動向は12月、1月の横ばいから2月は増加に。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは12月の減少から1

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	0.0	0.0	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	6.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	12.5	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0
柱角 KD12×3		0.0	0.0	0.0
土台角 10.5×4		0.0	0.0	0.0
土台角 12×4		0.0	0.0	0.0
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	50.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は総じて横ばいだが母屋角、間柱はやや強含み。

・ヒノキは全ての品目で横ばい推移。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも横ばい。

・トドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・需要に変化なし(北海道)。
- ・トドマツの原木在庫に合わせてフル生産で即出荷の状態(北海道)。
- ・年末から年始にかけて稼働に日数は少なくなるが、おおむね順調に生産の見込み。出荷は年間を通して安定した動き。12月、1月も大きくは落ち込む見込みはない。値上げ、出荷調整を行い当月は在庫量やや増加。今後の需要に対応していく(東北)。
- ・冬期不需要期につき出荷減(関東)。
- ・年明け、構造材の荷動き不振になるか(中国)。
- ・増産予定だが、人員不足のため横ばいを維持するのも大変だ。12月まで高出荷が続くのでは。売れ筋の製品は決まっており、そうでないものは売りづらい(中国)。
- ・人手不足のため欠勤者が出るとフル生産ができない状態(中国)。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは需給バランスによっては値上げへ（北海道）。
- ・スギ製材品は値上げ一段落も、無垢材に関しては引き続き出荷調整。ヒノキ製材品は前月同様安定した引き合いあり。集成間柱を主要顧客中心に値上げ実施。集成材全般で強めの単価（東北）。
- ・母屋角不足で価格上昇も。製材用ラミナは価格が安定（関東）。
- ・スギ、ヒノキ製材品とも原木の荷動きとは無関係に単価上昇の気配がない（中国）。
- ・スギ柱3.5角、4.0角は強含みの横ばい。ヒノキの相場は変わらず。ただしプレカット工場の稼働率が全国的に回復しているようなので、強含み。もしかすると値上げできるかも（中国）。
- ・KD材（特に構造材）に関しては、九州エリアはまだ引き合いが強い（九州）。

30年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 100.0	100.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・ベイマツ丸太の仕入動向は12月の減少から1月は増加、2月は再び減少に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

・ベイマツ丸太の消費動向は12月の横ばいから1月は減少、2月は増加に。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

・ベイマツ丸太の在庫動向は12月の減少から1月は増加、2月は横ばいに。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/12月	31/1月	2月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の購入価格動向は弱含み。

・NZラジアータ丸太は横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太の仕入、消費、在庫は横ばい推移で変動なし。

(原木価格動向)

・NZラジアータ製材用原木の購入価格は横ばいで変動なし。

30年12月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
生産動向	米マツ製材品	0.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 50.0	100.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は12月の横ばいから1月は減少、2月は増加に。NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。

・米マツ製材品の出荷動向は12月、1月の減少から2月は増加に。NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。

・米マツ製材品の在庫動向は12月の減少から1月、2月は増加に。NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	50.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格動向は平角、正角は横ばい。小割はやや強含み。

・NZ梱包材(割角、割板)は強含み。土木用材は横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・NZラジアータ製材品の生産、出荷、在庫動向は横ばい推移変動なし。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータ製材品の梱包、パレット用材向けは、1~2月中に2,000円/m³の値上げを依頼中。